令和６年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会　会議の概要

【日　時】令和６年 10 月８日（火）19 時 00 分～20 時 15 分

【場　所】伊豆市役所別館　２階 大会議室

【出席者】27 名

（敬称略）

機関・団体・役職名等	氏名	役職
新中学校開校準備委員会　委員	植松　真由美	会長
伊豆市商工会長	山田　健次	副会長
株式会社 FMIS	尾原　睦	委員
伊豆市子育てママスタッフ	工藤　絹衣	委員
三島信用金庫伊豆エリア支店長	宮本　浩和	委員
NPO サプライズ事務局員	髙橋　いづみ	委員
令和６年度伊豆市区長会副会長	勝呂　義衛	委員
県立伊豆総合高等学校校長	所　　康俊	委員
伊豆市民生委員	山下　数馬	委員
伊豆市長	菊地　豊	
副市長	伊郷　伸之	
教育長	鈴木　洋一	
総合政策部長	新間　康之	
総務部長	井上　貴宏	
市民部長	佐藤　達義	
健康福祉部長	大石　真	
産業部長	大路　弘文	
建設部長	山口　吉久	
教育部長	小塚　剛	
危機管理監	大村　俊之	
企画財政課長	土屋　直也	事務局
企画財政課 主幹	髙田　泰宏	事務局
企画財政課 主査	太田　成一	事務局
企画財政課 主任	深澤　香織	事務局
企画財政課 主任	三須　博之	事務局
企画財政課 主事	山田　息吹	事務局
企画財政課 主事	金刺　あかり	事務局

【資　料】

- 次 第
- 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議委員名簿
- 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議設置要綱
- 参考資料１－１ 伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期総合戦略（概要版）
- 資料１ 令和６年度　市民アンケート調査結果概要
- 資料２ 第２期総合戦略の KPI 及び施策評価について【令和５年度分評価】
- 参考資料２－１ 移住者支援、地域活性化等
- 資料３ 伊豆市で働く人の確保に向けて
- 資料４ 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略と伊豆市総合計画との統合について

開　会

１．議事

（１） 伊豆市総合戦略の概要について【参考資料１－1】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等はなし

（２） 市民アンケート調査結果概要【資料１】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等はなし

（３） 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略のＫＰＩ及び施策評価について【資料２、参考資料２－1】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等はなし

２．意見交換

（１）伊豆市で働く人の確保に向けて【資料３】に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（委員）　自分自身は希望職種につけているが、知人等周囲は給与面、労働条件で悩んでいる印象。私が勤めている会社も給与面が恵まれているとはいえず、中にはアルバイトをしている社員もいる。給与に見合わない負担を減らすことや、求人を増やすための企業努力が必要なのではないか。

（委員）　私は希望職種につけている。しかし、私の職場（医療関係）も人手不足であると感じている。市外のグループ会社から人を呼んだり外国人労働者で成り立っていたりする状況である。

（委員）　資料には『仕事がある』と記載されているが、本当に仕事はあるのか。新しい仕事が増えているとは感じられない。自身の居住地である土肥地区は、コロナ禍が落ち着き観光客も増えて活気が戻りつつあるなかで、外国人労働者が増加している印象。
企業アピール方法の再検討、PR 活動をすることで、労働力が集まるのではないか。また、自然豊かな環境面（魅力）をアピールすることも大切だと思う。

（委員）　子どもたちが市内にある仕事を知らない。また、大人であっても伊豆市に限らず地方には「仕事がない」と固定概念を持っている方が多い印象。
また、働く人の確保については、①市外から人材を確保する（移住者の確保）と②働いている方の離職防止の両輪で見ていく必要があると考える。
移住者の増加という観点で見ると、職種に希望がない方が多い印象。加えて、働く世代＝子育て世帯でもあり、『こどもの教育』に強い関心を持っている。若い世代ほど、希望職種に就くことよりも、学童等こどもを預ける環境を求めており、教育や、保育園の充実は必要と考える。
また、公立の学童で特色のある教育（先進的な英語教育など）があると良いと思う。
伊豆市は、待機児童０や日曜保育等魅力的な部分もあるため、そちらをアピールしていくことが必要ではないか。

（委員）　静岡県内の公立高校は進学を重視している。しかし、自身としては県外に出た若者が県内に戻らない点が気がかりである。
本校の工業科については、地元への就職が 7 割を超えており、こどもたちに「地元での就職」という意識がついているが、大手企業の人気が強い。大手企業を選択している背景には、保護者の「安心」かつ「安定」な企業に勤めてほしいという思いがあると感じている。
労働条件のみで就職した結果、離職している人もいることから、こども達の職業観や人生観を考える時間の充実が不足しているのではないかと感じている。高校生が実際に外に出て「仕事を知る」「働く」という機会があると非常にありがたい。大手企業でなくても、やりがいのある仕事は多くあるということを知る場を提供したい。

また、労働力という点については、学校においても教員不足であり、人員が見つからないと欠員のまま進まなければならない現状がある。そのような中で、定年後の再任用の方々には大変お世話になっており、知識や経験も豊富である点も非常にありがたい。他の職種でも 65 歳周辺の方々に働いていただいたらよいのではないか。
伊豆長岡地区は、旅館が立ち退いたあとに住宅地が出来て、どんどん人が入ってくる。しかし、それは立地環境によることが大きい。
伊豆市の自然環境を前面に出すことが、地域の魅力化に繋がるのではないか。

（委員）　私は伊豆市よりも人口の少ない市で生まれたが、伊豆市はまだまだポテンシャルがあると感じている。
賃金と求める労働条件が揃わないと、人材の確保は難しいと感じている。また、住環境については、近隣市町と比較すると老朽化が目立つように感じる。
伊豆は自然豊かな環境が魅力というが、現代の若年層（20 代～30 代）には魅力として受け入れられているのか疑問に思う。何がその世代にマッチしているのか、何を求めているのかが今後の課題だと思う。

（委員）　昨年度、学童の話をしたが実際に学童に入れてよかったのと声をもらっている。
外国人については、日本で働くと母国の 4 倍ほど稼ぐことができるとのこと。市内に働く場所があるとのことだが、その仕事についたら家族が生活できるのか、そのような仕事はどれだけあるのか、疑問に思った。
移住について、私の居住地の近くに分譲地があるが、あまり遠くない場所から若い世代が移住しており、理由を聞いたところ「安価」「同世代が近くにいる環境」に魅力を感じたそうで、職場や通勤についての話はなかった。

（副会長）　商工会としても外国人の受け入れについて動いたが、肯定的な人が少ない。人材が不足し、外国人の受け入れを行っている事業者も一定数あるが、オーナーが外国人の場合が多い。また、外国人労働者は独自のネットワークを持っており、待遇が良いところへ移りやすい。
商工会については、若い職員は給与が低いため女性職員は入ってくれるが男性職員は入ってくれない現状。
近年高齢による廃業というケースが多数であり、駅前の喫茶店が同様の理由で閉店し、駅前が寂しくなってきているという声も聴いている。廃業する情報があれば、事業継承をしたらよいと思う。
働く人を見つけることも必要だが、働く場所もなくなっている点についても検討の余地があると考える。

（市長）　伊豆市内の雇用については、宿泊・飲食が圧倒的に多く、次に医療・介護となっている。
仕事を探している人は、職種ではなく、給与の高さを重要視しているのではないかと思うため、伊豆市に住みたい方々については、希望所得がいくらかを知る必要があると考える。また、移住情報センターでの仕事紹介は、伊豆市内の雇用先だけを紹介しているのか。

（委員）　市内求人のみとなっている。

（市長）　市外企業に働きながら、伊豆市に住む選択肢を与えてもよいのではないか。

（副会長）　大手企業はハローワークをあてにしていない。ハローワークに求人情報を入れると斡旋する会社から連絡が来る。

（市長）　特に旅館業等について、雇用形態はオーナーによって大きく異なると認識している。
採用時の新人レクリエーションを行っている企業は若手の離職率が減少していると聞いた。これは、人材を大切にしている指標なのではないかと感じる。企業には、そのような人を大切にする環境を取り入れていいただきたい。
また、総合計画の KPI について、現在多くの指標があるが以下 3 つ程でよいと思っている。
・総生産 1000 億円
・高齢者のお達者度
・各年代（15 歳までの）人数
多くの指標を設定しなくとも、結果的に市にとってプラスの変化になっていればよい。

３．その他

（１）総合計画と総合戦略の統合について【資料４】に基づき、事務局から説明
※各委員から特に意見等はなく、総合計画と総合戦略の統合方針について了承頂いた。

（事務局）　皆様から本日いただいた貴重なご意見については、とりまとめのうえ公表させて頂きます。
以上をもちまして、令和６年度伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【閉　会】